

2026年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第114回

＜新年を展望する＞

謹んで新年のお慶びを申し上げます

本年もどうぞよろしくお祝い申し上げます

最近の市場環境はAIの急速な進化や活用などが進み、今迄に比べると新しいモノやサービスが加速度的に変化していますので、今年の午年（うまどし）にちなみ、天馬のようにポジティブに1年を駆け巡り、飛躍の年としたいものです。

経営を「未来づくり」と定義すると、持続的な成長と安定・発展の道を歩み続けるためには、やはり掲げている中・長期経営ビジョンの実現に向けた行動計画の内容に関わってきます。

時代を問わず企業競争力を築く大きな源泉は不断の生産性向上や時代を拓く各種イノベーションの創出です。これらの推進を担うべき人財が天馬のごとく、自身の持てる生命力を自主的に存分に発揮できる働き易さや、働きがいなどに通じる職場環境を整備しつつ、自社の強みの強靱化や新たなモノやサービスの創造に結びつけたいものです。

かつて我が国の高度経済成長を支えた改善・改革活動が最近少なくなりましたが、再考する時ではないでしょうか。活動の基軸になるビジョンや目的・目標が組織で共有され、社内に潜在する知識や知恵が活動を通じて合流して生まれる相乗効果は、さらなる生産性向上やイノベーションを創出します。その経営成果の価値は大きく、活動費用はコストではなく「未来づくりの投資」と捉えられるのではないのでしょうか。

＜実験は計画に勝る＞

人間が未来を制御したいと思うのは自然なことだ。我々の誰もが、未来が自分の計画に従って展開することを望んでいる。だが、現在が未来への手引きとしてますます信頼できないものになっている世界では、競争に勝ち残れるか否かは、次に来ると思われるものに備えて計画することにより、むしろ次に来る可能性があるものを絶え間なく実験することにかかっている。～途中略～

破壊的な技術を実験する、新しい販売方法を探る、新しい種類の顧客に手を伸ばすなど、現状に代わるものを探す作業にどの程度先行的に投資しているかに大きく左右される。

— 出典：「経営の未来」ゲイリー・ハメル&ビル・グリーン著 藤井清美訳 —